

“紅葉の長岡京を散策”の記録

日時 : 2015 年 11 月 26 日(木) 10 時
参加者 : 9 名 (浅野、石原、大石、並木、日影、前窪、杉谷、万井、藤井)
行程 : 長岡天神駅 ⇄ 長岡天満宮 ⇄ 長岡市埋蔵文化財センター ⇄ 走田神社
⇄ 西山公園グリーンハウス ⇄ 光明寺

今回は長岡天満宮から竹林の径を抜けて紅葉の粟生光明寺への散策をしました。

当日の未明まで雨音が聞こえていましたが朝には何とか雨は上がっていました。
総勢 9 名の参加のもと 10 時に万井氏より挨拶、本日の見どころ、コースの説明等があり
今にも泣き出しそうな空を見ながら、いざ 出発！！

- ① 阪急長岡天神駅から約 10 分程度歩くと長岡天満宮境内の東に「八条ヶ池」が広がります。2 月は梅、4 月は桜、4 月下旬から咲く霧島ツツジは特に有名です。秋は紅葉 と花々を求めて訪れる観光客も多いようです。「紅葉みごろです」の看板の前で記念写真。
- ② 八条ヶ池を渡って少し上がると長岡天満宮の社殿。菅原道真公が太宰府に左遷されるとき、名残を惜しんだ地として知られています。
社殿の近くでは長岡京市の保存樹木である「ムクロジ」に出会いました。
樹齢、約 200 年 幹囲 3m、樹高 18m と言う正に堂々とした巨樹でした。
- ③ 本殿裏の長岡公園を経るとしばらく竹林が続いていました。
手入れの行き届いた竹林は静かで別世界に入ったようで竹取物語を彷彿とさせるような情景でした。
- ④ 長岡京市は、古くから文化・物流の結節点として発展し市内の各所には、遺跡や古墳、神社仏閣といった文化財が存在しています。中でも長岡京市は 784 年から約 10 年間、国の都であったということです。長岡京市埋蔵文化センターでは 11 月 1 日～11 月 30 日まで「長岡京の銭貨」の特別企画展が開かれていました。学芸員の山本さんの説明を受け長岡京の時代に用いられた三種の銅銭や埴輪、土器など暫し見入りました。
- ⑤ その後、静かな住宅街を通り抜け走田神社に立ち寄りました。
神社は真っすぐに伸びる石段を昇りきった山腹の森に建っていて、とても古めかしい感じがしました。
石段の途中で珍しいものを目にしました。鳥居を形取った竹に固定した長さ約 6 メートルのしめ縄（“勸請縄”と言う）とサカキの束、御幣で作られたもの。サカキの束は 12 本で 1 月～12 月を指し、御幣のたれ下がりが方でその年の米相場を占ったと伝えられているとのこと。
ちなみに“勸請縄”は社殿内で乾燥させた地元産の藁です。
本殿覆屋は瓦葺二階建て風の珍しいもので本殿を保護するために設けられているとのこと 神社では、天津児屋根根命など春日四神を祀る古社で奥海印寺と長法寺の産土神となっている。走田神社の“走田”とは、走り穂、初穂を作る田のこと。早稲田の守護神という意味 等々・・・管理されている方の説明を受けました。
境内には大きなヤマモモの木がありました。その傍にハートの形で敷き詰められた砂利が何とも微笑ましく印象的でした。

再び竹林道を歩み西山公園グリーンハウスで昼食を摂りました。静かな公園のテーブルで食事をしている時に他のシニアの団体が入って来て公園はシニア一色となりました。

⑥ 食後は最終目的地の光明寺へ

光明寺は西山浄土宗総本山。法然上人の弟子、蓮生法師の開基とされています。
紅葉の寺として親しまれ、境内の参道両側にある紅葉があざやかでした。
大型バスがひっきりなしに発着し大勢の人々が紅葉を楽しんでいました。

時々、パラパラと雨が降りましたが、万井氏の細やかな説明を聞きながら美しい落ち着いた
歴史ある街並みの散策は有意義なものでした。万井さん、皆様お疲れ様でした。 藤井

①



②



③



④



④



⑤



⑤



⑤



⑤



⑥



⑥



⑥

